

そう だい
総 題 「家族の四季」

だい か
第 4 課 ひと
独りのとき

いとう ひろし
伊藤裕史

あんそくにちごご
1. 安息日午後

かみさま わたし にんげん つく
神様は、私たちが人間をひとりであるように造られませんでした。

た ひと まじ なか い わたし しあわ
他の人との交わりの中で生きることが、私たちの幸せなのです。

みな いま
皆さんは今どうですか。

ひとりですか、それともよい交わりの中にいますか。

わたし す ちじょう せいかつ かみさま つく よろこ まじ
私たちが住んでいる地上での生活は、神様の造られた喜びの交わりがあふれているところではありま
せん。今週は、神様が造られた結婚を中心、交わりと、交わりのないひとりの時について学んでいきます。

にちようび まじ
2. 日曜日：交わり

かみさま わたし まじ なか い つく
神様は私たちを、交わりの中で生きるように造られました。

その せいかつ かみさま ひと まじ
エデンの園での生活は、神様や人との交わりからはじまりました。

ことば
コヘレトの言葉4：9～12 (ひとりよりもふたりが良い。共に労苦すれば、その報いは良い。) の言葉は、この
まじ わたし つた
交わりのすばらしいことを私たちに伝えています。

しかし、ここに問題があります。

わたし ひと なか せいかつ
たしかに私たちは人の中で生活をしています。ひとりではありません。

わたし かぞく ちいき しょくば きょうかい ひと かこ
私たちは家族や地域、職場や教会で人に囲まれています。

しかし、その中であって自分はひとりだと感じることはありませんか。

わたし おお ひと なか わたし かん
私たちは多くの人の中にも、私はひとりであることを感じることもあるのです。

とき かみさま わす
その時でも、神様がいっしょにいることを忘れないでください。

せいしよぜんたい やくそく かみ われわれ とも
聖書全体に約束されていること。それは「神は我々と共におられる」だからです。

ことば しんきょうどうやく
(コヘレトの言葉4：9～12：新共同訳)

げつようび けっこん じんせい
3. 月曜日：結婚しない人生

かみさま その ひと ひと けっこんせいど かぞく
神様は、エデンの園で、「人は独りであるのはよくない」といって結婚制度をつくれ、家族をつくられました。

かみさま ようい まじ きほん かぞく けっこん ひつよう
神様が用意してくださった交わりの基本が家族とするならば、家族をつくる結婚は必要なものなのでしょうか。

せいしょ よ けっこん ひと
聖書を讀むと結婚しなかった人がたくさんでできます。

イエス様も結婚されませんでしたし、他の預言者たちも結婚してずっと 幸せとはかぎりませんでした。

結婚はよいことですが、結婚をしてうまくいかなないこともあるでしょう。

わたし じんせい けっこん もんだい
私たちの人生は結婚しているかどうかが問題ではないのです。

かみさま そな みち ある とき あゆ なか けっこん ひつよう かんが
神様の備えられた道を歩く時に、その歩みの中で結婚が必要かどうかを考 えなくては いけない こともあるの
です。

いま にほん けっこん しやかい けいざいてき りゆう ちゅうしん
ただ、今の日本は、むしろ「結婚できない」社会といわれています。それは経済的な理由が中心だといわれて
います。わかもの けっこん かんが
若者たちが結婚できるために 考 えていかななくては いけない のかもしれません。

4. 火曜日：結婚生活が終わる時

みな なか けっこん す ば けいけん ひと おも
皆さんの中には、結婚をして、その素晴らしいことを経験している人もいます。

でも、これまで学んだように、それはこの地上においては永遠に続くものと決まっています。

へんか けっこん す ば りこん お
変化がおそうときがあります（結婚して素晴らしいことが離婚などによって終わること）。

ざんねん わたし けっこんせいかつ つづ りこん ひと
残念ながら、私たちのまわりでも、結婚生活を続けることができずに離婚する人がたくさんいます。

どのような理由があるにせよ、離婚はつらいものです。

かみさま りこん にく しよ しんきょうどうやく い
神様も「わたしは離婚を憎む」（マラキ書2：16新共同訳）といわれています。

だから、できるだけ結婚生活がうまくいくように二人も努力をしていかななくては いけません。

まわりも きょうりよく
まわりも協 力しなくては いけません。

きょうかい も
教会でもさまざまなプログラムを持つことができるはずで。

みな
皆さんでできることはありませんか。

5. 水曜日：死と孤独

けっこん まじ まじ な し
結婚をふくむあらゆる交わりをこわすもの（交わりが無くなる）が死です。

し かんけい にんげんかんけい な わたし
死によって関係がこわされる（人間関係が無くなる）ことが、私たちをひとりにするのです。

わたし とき し けいけん
私たちはアダムとエバの時から、この死を経験しています。

みな あい し みじか ひと し けいけん おも
皆さんもこれまで、愛するものの死、身近な人の死を経験していると思います。

でも、いずれやってくるものとして、この大きな出来事を当たり前のもと 考 えてはいませんか。

かんが む だ かんが
考 えても無駄だと、考 えないようにしていませんか。

そして、そこからやってくる、ひとりとなる悲しみをあきらめて受け入れてはいませんか。

それは何も 考 えずに受け入れていいものなのでしょうか。

そうではないはずです。死によってもたらされるものは、神様のみこころではないからです。

そして、皆さんはそれを打ちくだく約束を知っておられるはずです。

たし ちじょう せいかつ し
確かに地上での生活で、死はのがれることのできないもの（いつかは死ぬもの）。

しかし、それを打ちくだく^う約束^{やくそく}を求めることはできるのです。

聖書^{せいしょ}のみことばでそれを確認^{かくにん}し、祈り^{いの}にくわえて下さい。

6. 木曜日：靈的独身

青年^{せいねん}たちの関心^{かんしん}の一つは結婚^{けっこん}です。

そこに立ち^たはだかる^{けっこん}（結婚^{かみさま}が神様^{ちゆうしん}を中^{つづ}心に^あ続^{ひと}くか^{おな}どうか^{しんこう}）のは、愛^{あい}する人^{ひと}が同^{おな}じ信^{しん}仰^{こう}を持^もっているかどうかです。

教会^{きょうかい}には家^か族^{ぞく}の中^{なか}で信^{しん}じるもの^{もの}がちがうこと^{こと}で、いっしょに礼^{れい}拝^{はい}をうけること^{こと}のできない人^{ひと}がいます。

そこには2つのこと^おが起^おこっています。

①神^{かみ}様^{さま}の側^{がわ}に立^たつ人^{ひと}の感^{かん}じるひ^ひとりの悲^{かな}しみです。

いっしょに教^{きょう}会^{かい}生^{せい}活^{かつ}をおくことができない。

いっしょに活^{かつ}動^{どう}することができない。

いっしょに礼^{れい}拝^{はい}することができない。

もちろん、このよう^{ひと}な人^{かみ}は神^{かみ}様^{さま}から^{はげ}の励^うましを受^うけることができます。

教^{きょう}会^{かい}から^{ささ}の支^しえも必^{ひつ}要^{よう}となるでしょう。

そのた^{かん}めにで^{かん}きることを考^{かん}えてい^{かん}きましょう。

②ひ^とと^のり^こ取^{かな}り残^{かな}される悲^{かな}しみです。

安^{あん}息^{そく}日^{にち}に、家^か族^{ぞく}の中^{なか}で奥^{おく}さん^{こども}と子^き供^{こう}が教^{きょう}会^{かい}に出^{しゅつ}席^{せき}、ご主^{しゅ}人^{じん}だけ^{ひとり}が一^す人^みで過^かす、とい^かう家^か族^{ぞく}をい^みくつも見^みてき^かました。家^か族^{ぞく}がい^{きょう}っしょに教^{きょう}会^{かい}に^なくることがで^{かん}きるた^{かん}めに何^{なん}がで^{かん}きるか^{かん}も考^{かん}えてい^{かん}なくては^{かん}いけません。

7. 金曜日：さらなる研究

神^{かみ}様^{さま}はさ^{みち}ま^{よう}ざ^いまな道^{みち}を^{だい}用^{じょう}意^ぶしてくだ^{だい}さ^{じょう}つて^ぶい^ぶるので、これ^{だい}だけ^{じょう}で大^{だい}丈^{じょう}夫^ぶとい^{だい}うもの^ぶはあ^{だい}り^{じょう}ま^ぶせん。

今^{こん}週^{しゅう}は結^{けっ}婚^{こん}を中^{ちゅう}心^{しん}に考^{かん}えてい^{かん}きました。

し^{とき}かし^{とき}その時^{とき}で交^{まじ}わり^{ちゅう}の^{かみ}中^{しん}心^{さま}を、神^{かみ}様^{さま}に^{とき}しな^{ひと}く^{まじ}ては^{たい}い^{せつ}け^つない^つ時^{とき}もあ^{ひと}れば、人^{ひと}と^{まじ}の交^{たい}わり^{せつ}を大^{たい}切^{せつ}にしな^{たい}く^{せつ}ては^{たい}い^{せつ}け^つない^つ時^{とき}もあ^{ひと}るの^{ひと}です。

エ^{かみ}ノ^{さま}ク^{まじ}の神^い様^{かた}と^すの交^すわり^ばの生^{ひと}き^{とき}方^あは素^す晴^はら^あしい^あで^あすが、す^すべ^すて^すの^す人^{ひと}の^す、す^すべ^すて^すの^す時^{とき}に^す当^あて^あは^あま^ある^あもの^あでは^あない^あの^あです。

一^{いち}番^{ばん}の問^{もん}題^{だい}は、人^{ひと}と^{まじ}の交^{まじ}わり^もを求^もめてい^もな^もが^もら、そ^みれ^みが満^みた^みさ^みれ^みない^み人^{ひと}が^{ひと}い^{ひと}る^{ひと}とい^{ひと}うこ^{ひと}です。

教^{きょう}会^{かい}の中^{なか}で^おさ^おえ、そ^おれ^おが起^おこ^おるの^おです。

そして、そのことは^{まわ}周りの^{ひと}人には^わすぐには分からないのです。

^{みな}皆さん^{じしん}自身で、^{きょうかい}教会で、^{ひと}そのような人のためにできることを^{かんが}考えていきましょう。